

海外医師会との交流

ドイツ医師会とのテレビ会議

令和2年10月14日、ドイツ医師会と両国における新型コロナウイルスパンデミックの対策についてテレビ会議を行った。会議には、中川俊男会長、松原謙二副会長、釜范敏常任理事、橋本省常任理事、ドイツ医師会から、クラウス・ラインハルト会長、フランク・ウルリッヒ・モントゴメリー前会長（世界医師会議長）、ラミン・パルサ・パルシ国際部長、ドーマン・ポドナー政策アドバイザーが参加した。

両国の事例では、中川会長が日本のクラスター対策を紹介した。早期にクラスターを封じ込め、クラスターから新たなクラスターへの感染拡大を防止する手法として極めて有効であったと説明した。さらに、クラスターの分析から、「密閉」した空間に人が「密集」し、距離が「密接」する条件が揃うことにより感染拡大リスクが助長される「3密」の回避が感染防止につながることをいち早く把握し、対策を講じたことが感染拡大の抑制に効果があったことを概説した。

ラインハルト会長は、第1波において十分な検査能力、集中治療室の拡張、空床ボーナスの導入等の対策が功を奏したことに加え、入院患者と外来患者の区域を厳密に区別してCOVID-19患者を診療所で治療したことが蔓延の防止につながったと説明した。さらに、ロベルト・コッホ研究所、ウイルス学者、ドイツ医師会によるメディアを通じた連日の報道が、十分な情報に基づいた市民行動を促したことを報告した。

その他議論では、釜范常任理事からオンライン診療の問題点を説明した。ドイツ医師会からは、医師不足が今後も問題となり得るべき地で、特に現在のパンデミックに対応して、「ゴールド・スタンダード」である対面診療の補足としての遠隔医療が果たす役割も認識しているとの発言があった。